



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—原油安を嫌気して下落 ダウ平均は年間リターンがマイナスに—

	前週終値	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,552.17	17,528.27	17,720.98	17,603.87	17,425.03	休場	-127.14	-0.72%
騰落幅		-23.90	+192.71	-117.11	-178.84			
S&P500	2,060.99	2,056.50	2,078.36	2,063.36	2,043.94			
騰落幅		-4.49	+21.86	-15.00	-19.42		-17.05	-0.83%
ナスダック総合指数	5,048.49	5,040.99	5,107.94	5,065.85	5,007.41		-41.08	-0.81%
騰落幅		-7.51	+66.95	-42.09	-58.43			

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、原油価格が弱含んだことなどから軟調に推移し、ダウ平均は週間で127ドル安となりました。

この結果2015年は、ダウ平均が年間で2.2%の下落、S&P500が0.7%の下落でそれぞれ2008年以來7年ぶりのマイナスとなった一方で、ナスダック総合指数は5.7%の上昇と4年連続の前年比プラスとなりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



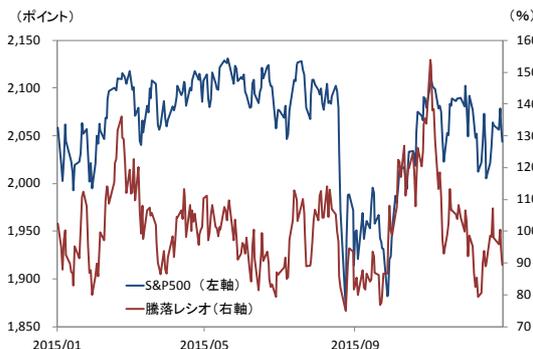
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.6	3.0	2.6%
S&P500	17.4	2.8	2.2%
ナスダック総合指数	22.6	4.1	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年12月31日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

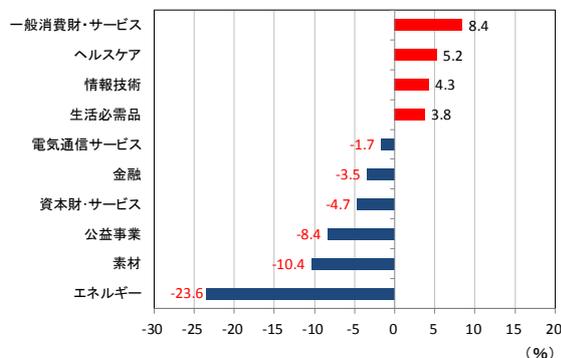
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

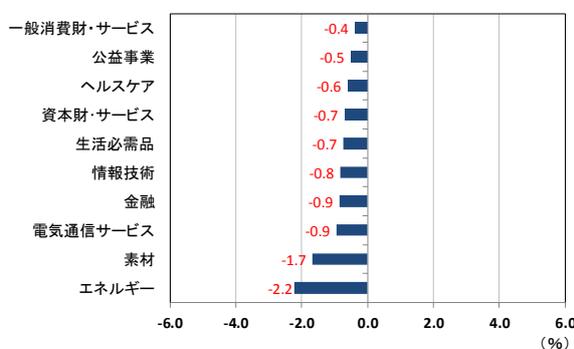
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(12/28-12/31)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
GE	ゼネラル・エレクトリック	1.0
WMT	ウォルマート・ストアーズ	0.8
BA	ボーイング	0.7
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	0.3

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング(12/28-12/31)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
AAPL	アップル	-2.6
CVX	シェブロン	-2.3
CAT	キャタピラー	-2.0
XOM	エクソンモービル	-1.7
INTC	インテル	-1.5
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-1.3
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-1.2
NKE	ナイキ	-1.1
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-1.0
PFE	ファイザー	-1.0

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇はゼネラル・エレクトリック (GE) やウォルマート・ストアーズ (WMT) など4銘柄にとどまりました。

<下落>

幅広い銘柄が下落しました。アップル (AAPL) は週間で2.6%の下落と下落率トップとなりました。新型 iPhone の販売不調観測が根強いなか、株価は下落基調を強めています。その他シェブロン (CVX) やエクソン・モービル (XOM)、キャタピラー (CAT) など原油安で売られやすい銘柄が下落率上位に並びました。

先週発表された主な経済指標

カンファレンスボード消費者信頼感指数 12月 96.5 市場予想 93.8 前月 90.4

29日に発表されたカンファレンスボード消費者信頼感指数は、96.5と市場予想の93.8を大きく上回って前月から改善しました。

前月の大幅な悪化からは持ち直しー安心といったところですが、まだ前々月の水準までは回復しておらず、消費者センチメントの見極めにはもう少し様子を見たいところです。

米国の消費者センチメント



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

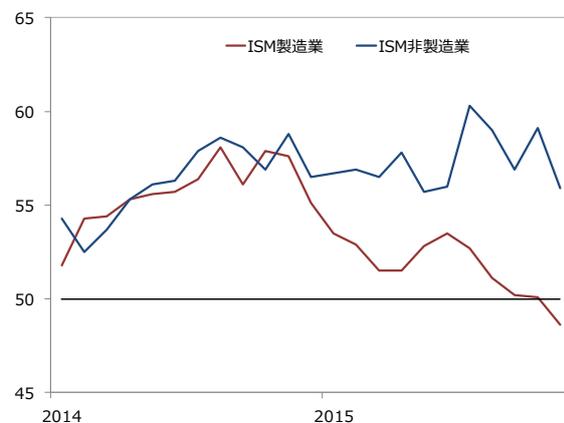
今後発表される主な経済指標

12月 ISM 製造業景況感指数 市場予想 49.0 前月 48.6

4日にISM 製造業景況感指数が発表されます。11月のISM 製造業指数は3年ぶりに改善と悪化の境目となる50を下回りました。ドル高の影響で米国製造業の景況感低迷が懸念されています。

12月分は前月から改善するものの再び50を下回ると予想されています。

ISM景況感指数 (製造業・非製造業)



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

マーケットビューー冴えない経済指標受け弱含みの展開かー

先週の米国株式市場は原油安を受け冴えない展開となりました。2015年を振り返るとダウ平均やS&P500はマイナスのリターンとなった一方、ナスダック総合指数はプラスとまちまちでした。

年末にかけて発表された経済指標は冴えないものが目立ちました。フィラデルフィア連銀製造業指数、中古住宅販売件数、耐久財受注、新規失業保険申請件数、シカゴ購買部協会景気指数などがいずれも市場予想を下回りました。12月に利上げを行った米国ですが、経済指標の悪化が続けば、米国経済の今年の成長に不安が広がる可能性があります。よほどのことがない限り金融政策の方向性には変更がないとみられるなか、米国経済の成長鈍化→企業収益の停滞というシナリオとなれば大幅な株高を期待することは難しそうです。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、[「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」](#)をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会